

小学校英語活動授業のイメージ コンテンツの作成

1. はじめに

藤岡市教育研究所の外国語活動班では、平成 21 年度にパナソニック教育財団の支援を受け、プロジェクタと簡易型電子黒板を購入し、これまでに研究開発してきた小学校外国語活動指導計画を検討・修正するとともに「英語ノートデジタル版」を活用した授業実践を行ってきた。市内の先生方にその授業を公開するとともに、実践事例集を作成した。

小学校 5・6 年の学級担任からは、動画や音声を再生することによって、分かりやすく楽しい外国語活動の授業の展開が可能になることや、提示用フラッシュカードなどのデジタル教材活用への期待の声が聞かれた。

しかし、紙面の実践事例集だけでは、実際の授業を見ていない教員にとって授業イメージをもつことは難しい。学校から「公開授業の記録ビデオがないか。校内研修において全職員で研修したい」という要望も出た。

そこで、平成 23 年度は、小学校外国語活動の授業のあり方について再度検討するとともに、実際の外国語活動の授業をビデオカメラで撮影し、ポイントごとにコンテンツ化することによって、誰でも具体的な授業イメージをもって授業を行うことができるようにしたいと考えた。

そのため、平成 23 年度本市教育研究所に小学校外国語活動班を設け、2 名の研修員に授業コンテンツを作成してもらい、それを動画編集ソフトによって分かりやすく編集するとともに、Web 公開し、小学校教員が誰でも参考にできるような形で発信することとした。

2. 研究の目的

本研究を通して、小学校外国語活動授業のイメージコンテンツ集を作成することにより、児童が積極的にコミュニケーションを図ろうとする外国語活動の具体的な授業イメージをもって、学級担任が授業を行うことができるようにする。

3. 研究の方法

- (1) ICT 機器（電子黒板・ビデオカメラ）の環境整備 *市教育研究所への導入
- (2) 授業実践
 - ①小学校 2 校における授業実践（6 年）
 - ②授業実践の公開並びに授業研究会
- (3) 市内全校教職員向けの外国語活動研修会・講演会の実施

(4)外国語活動実践事例（授業コンテンツ）の作成・Web化して公開

- ①単元指導計画 ②1時間ごとの展開例 ③授業コンテンツ（動画）

4. 研究の内容・経過

(1) ICT 機器（電子黒板・ビデオカメラ）の環境整備

本研究助成により、市教育研究所へ ICT 機器（電子黒板・ビデオカメラ）を導入した。定例研修において、電子黒板で授業づくりの構想を練ったり、フラッシュ型教材の検討を行ったりした。また、授業コンテンツ作成に向けて、ビデオカメラを活用し、授業記録を撮った。

(2)授業実践

①小学校2校（6年：神流小学校、平井小学校）において、「積極的なコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」をテーマに授業実践を行った。特に、1単元を検証授業として扱い、単元指導計画、1時間ごとの展開例を作成した。

②授業実践の公開並びに授業研究会を、市内全校教職員向けに年間2回実施した。

【第1回 藤岡市立平井小学校6年 平成23年10月24日実施】(69名参加)

○研究テーマ「積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」

～外国人との対話経験とその振り返り活動を通して～

○単元名：「外国人と対話し、一緒に写真を撮ろう！」 第10/11時

○授業改善の視点

修学旅行での外国人との対話体験の振り返りをする活動において、十分な練習時間を確保し、担任とALTとのデモンストレーションを取り入れて表現するための視点を児童自ら気付かせたり、対話振り返りカードを活用したりしてその視点に気を付けながら練習させれば、児童は英語で対話することに安心感をもち、楽しみながら活動できるであろう。

○授業研究会における参観者の感想

・子どもたちが堂々と発表する様子から、修学旅行での対話経験が自信につながったことが見てとれた。

・担任が子どもの様子を見ながら授業をリードし、ALTが英語の指導をするというふうに、担任とALTの役割分担が機能していて、参考になった。担任が明るい表情で英語を話す姿が子どもたち（学習者）のよいモデルになっていた。



〈対話体験振り返り活動の様子〉

・1時間の授業の中で、本時のねらいを達成するための子どもの変容が見られるよう、活動の途中で中間評価をする必要性を感じた。

【第2回 藤岡市立神流小学校6年 平成23年11月9日実施】(33名参加)

○研究テーマ「積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」

～思いを相手に伝える自己表現活動を通して～

○単元名： 「修学旅行で学んだ文化を紹介しよう」 第6/9時

○授業改善の視点

グループで発表練習を行う場面において、2つの違うデモンストレーションを見せ、課題を明確にさせてから課題を解決するためにグループで練習を行い、グループのよさを見合ったり知ったりする場面を設定し、改善の視点をより明確にすることで、よりわかりやすい発表にしていくことができるであろう。



悪い例〈デモンストレーション〉よい例

○授業研究会における参観者の感想

- ・グループでの発表練習を行う前に、担任とALTが2つの違うデモンストレーション（悪い例、よい例）を見せることで、子ども達が本時のねらいである「大きく表現すること（声、ジェスチャー、抑揚）」を意識して練習に取り組んでいた。
- ・グループで互いの発表を見合い、よい点や課題について中間評価し合うことで、各グループが自分たちの課題を明確にすることができ、後半の練習でよりわかりやすい発表へと子どもの変容が見られた。

(3)市内全校教職員向けの研修会・講演会の実施

①小学校外国語活動研修会 平成23年8月18日実施 42名参加

「小学校外国語活動の目標を達成するためのコミュニケーション活動」

～子どもの発達に合わせた小中連携プログラム～ 講師：(株)mpi 会長 松香 洋子 先生

○内容

「聞く態度を育てる」「しっかりとしたパフォーマンス(発表)を可能にする」ための具体的な活動例を参加者が体験した。

○参加者の感想

- ・授業で使える具体的な活動例について体験しながらの講演だったので、それぞれの活動の特性がわかり、子どもの目線に立って、コミュニケーション活動の楽しさを実感することができた。すぐに教室で実践したい。
- ・コミュニケーションには、「聞く」態度を育てることが大切であることを改めて感じた。パフォーマンスを取り入れることで、見る・聞く側の姿勢が変わることもわかった。今後実践していきたい。



〈教員研修会〉

②小学校外国語活動講演会 平成23年10月24日実施 96名参加

「小学校外国語活動の在り方」

～授業の活動の組み立て方と小中連携について～

講師：文部科学省初等中等教育局 教育課程課 国際教育課
教科調査官 直山 木綿子 先生

○内容

- ・公開授業をもとに、授業の活動の組み立て方について指導をいただいた。『担任(授業のコントロール、学習者の良きモデル)とALT(英語を聞かせる)の役割分担が適切であった。グループでの発表練習では、活動の途中で中間評価をして活動をバージョンアップさせることが大事である。1時間の授業の中で子どもの変容が見られることになる。』



〈講演会〉

・小学校では、話す・聞くことを中心に英語を使ってコミュニケーションすることの楽しさを体感させ、英語の音声に慣れ親しませ、コミュニケーション能力の素地を養う。中学校では、読む・書くことを加えた4領域の言語活動で正確さ・適切さを指導する。中学入門期に小学校で扱った活動を再現し、小学校で培った素地を中学校で発揮できるようにする。英語教育において小中連携は必須である。

○参加者の感想

・学習指導要領をもとに、外国語活動の目指すところ(目標・内容)、指導の在り方について、わかりやすく解説していただいたので、担任としてどのように子どもたちに関わり、指導していくべきか明確になった。また、授業の活動の組み立て方について、具体的な実践例をあげて説明していただいたので、今後の授業づくりにおいて大変参考になった。

・英語ノートの活用の仕方がよくわかった。

・小中連携の意義についての話から、小学校教員として外国語活動でやるべきこと、また中学校英語教員として英語科でやるべきことが明確になった。小中連携の大切さを実感した。

(4) 外国語活動実践事例(授業コンテンツ)の作成・Web化して公開

- ①単元指導計画 ②1時間ごとの展開例 ③授業コンテンツ(動画)

*藤岡市教育委員会学校教育課 Web ページに公開(トップページ→教育研究所)

<http://10209.schoolweb.ne.jp/swas/>

● 小学校英語活動イメージコンテンツ

- 単元「外国人と対話し、一緒に写真を撮ろう!」指導計画
- 単元「外国人と対話し、一緒に写真を撮ろう!」展開例
- ハローソング(WMV)
- 曜日の歌(WMV)
- 対話練習(MP4)
- デモンストレーション1(MP4)
- デモンストレーション2(MP4)
- デモンストレーション2良い例(MP4)
- デモンストレーション4チャンツ1(MP4)
- デモンストレーション5チャンツ2ゆらり(MP4)
- デモンストレーション8チャンツ3(MP4)
- 発表会(MP4)
- 単元「移住旅行で学んだ文化を紹介しよう!」指導計画
- 単元「移住旅行で学んだ文化を紹介しよう!」展開例
- ワークシート(ジェスチャーゲーム)
- ワークシート(移住旅行振り返り)
- ワークシート(習中当てクイズ)
- ワークシート(発表原稿)
- ALTお手本(MP4)
- グループ練習(MP4)
- グループ練習模範(MP4)
- グループ練習1前半(MP4)
- グループ練習1後半(MP4)
- ジェスチャーゲーム1前半(MP4)
- ジェスチャーゲーム1後半(MP4)
- ジェスチャーゲーム2前半(MP4)
- ジェスチャーゲーム2後半(MP4)
- チャンツ1前半(MP4)
- チャンツ1後半(MP4)
- チャンツ2前半(MP4)
- チャンツ2後半(MP4)
- ビデオレター(シーバウ景り物)前半(WMV)
- ビデオレター(シーバウ景り物)後半(MP4)
- ビデオレター(銭洗い弁天)前半(MP4)
- ビデオレター(銭洗い弁天)後半(MP4)
- 本番チャンツ1(MP4)
- 本番チャンツ2(MP4)
- 本番チャンツ3(MP4)
- 外国人と対話しよう:対話練習(WMV)
- 外国人と一緒に写真を撮ろう(WMV)
- 指示物(WMV)

「外国人と対話し、一緒に写真を撮ろう!」指導・評価計画(10/11)

学 習 活 動	時 間	担任の活動・指導上の留意点等		評価項目と方法等
		担 任	ALT	
(導入) ・あいさつ (イングリッシュリーダー) ・チャンツ 「Excuse me. 「Do you have a minute? 「Where are you from? 「I'm from ~. 「Let's take a picture! ・担任とALTのデモンストレーションを聞く。 ・悪い例と良い例を見せることで、コミュニケーションに必要な視点「表情」「声の大きさや抑揚」「ジェスチャー」「アイコンタクト」に児童自ら気づくことができるようにする。	10	・元気な明るい授業の雰囲気をつくるために、机間巡回しながら、大きな声で、大きくジェスチャーする。 ・本時の活動の中で扱う表現をチャンツの中に取り入れる。 ・英語の発音の確認を行う。	・児童の見本となるよう、大きくジェスチャーしながら歌う。 ・本時の活動の中で扱う表現をチャンツの中に取り入れる。 ・英語の発音の確認を行う。	

〈展開例〉



〈デモンストレーション〉
動画



〈チャンツの様子〉動画

5. 研究の成果と今後の課題

(1) 児童の変容 【アンケート結果から】

本研究授業実践2学級の児童に対して5月と11月に行ったアンケート結果は、以下のとおりである。

質問内容		5月	11月
町で、外国人に話しかけられたらどうしますか。	笑顔で通り過ぎる	14%	0%
	「ハロー」と言って通り過ぎる	43%	3%
	とりあえず話してみる	43%	97%
〈変容があった児童の感想〉 ○修学旅行で外国人と話す前は、失敗するかもしれないと思っていたけど、実際話してみると、自分たちが思っていることが伝わった気がしました。 ○外国人と対話してみて、最初は緊張したけれど、やってみたらとても楽しかったです。それに、この体験を通して外国語に対して、今までよりも自信を持てるようになりました。			

上記の結果からわかるように、単元学習の成果として、児童が修学旅行で外国人と対話できたことに喜びを感じ、相手に自分の思いが通じたと実感できたことが外国語に対する自信につながった。積極的にコミュニケーションを図るという観点から見て大きな成果である。



〈外国人との対話 修学旅行にて〉

(2) 研究の成果

- 本研究を通して、「積極的なコミュニケーションを図ろうとする

態度の育成」をテーマに授業研究・授業実践をしたことで、児童に外国語活動に対する興味関心が高まった。

- 本研究で作成した実践事例（授業コンテンツ）を参考に平成24年度の指導計画を立てる学校が出てきている。併せて、授業公開や演習型の研修会・講演会を開催したことは、学級担任の外国語活動の授業のイメージが明確になり、「まずは、まねしてやってみよう」という意欲につながった。

(3) 今後の課題

平成24年3月に「外国語活動実践事例（授業コンテンツ）」をWebページに掲載したので、C4th掲示板において、市内全小中学校教職員に周知した。今後も教育研究所の研究発表会等において随時、事例集の活用について呼びかけていく。また、外国語活動の授業公開や教職員の研修会を継続して実施し、外国語活動の授業づくりやICT機器の活用に慣れる機会を設けていく。

＜参考文献＞

- 「英語ノート2を活用した英語活動の授業」 直山木綿子 著（小学館）
- 「フラッシュ型教材のススメ」 高橋純/堀田龍也 編著（CHieru）
- 「学習指導要領の小学校活動の目標を達成するための144の活動集」 松香洋子/野田まゆみ 著（mpi） 他